

大正 翻/白

支

支那へ外洋船東入申請

略號 至急電報

二 昭
 一五〇 二二一、二二二、二二六
 一〇九 二二三、二二四、二二五、二二六
 三五 二二五、二二六
 三五 吳著 /

宛 次官

總參電第ニ四號

支那派遣軍總參謀長(南京)

中國戦区各地区ヨリノ歸還輸送ニ関シテハ一應目途立タタルモ統方
 面軍民(計約三〇萬)ノ長江輸送ニ関シテハ一大難関ニ逢着セン
 トシツアリ

即中國側ハ外洋船ノ長江乗入ヲ嫌ヒ二月七日以降僅カニ中國船
 五隻ヲ以テ長江輸送ニ任セシメ統主力ハ之ヲ行軍ニ依リ南京運
 出セ云々如ク企圖シアルモ兵站ノ諸準備其他ノ觀點ヨリテ行軍
 ハ不可能ナリ 現在諒解ヲ得ル如ク銳意折衝ニ努メツツアル
 モ米軍トノ詰合ノ關係モアルモノ如キヲ以テ中央ニ於テモ「マ」總

司令部ニ對シ右實情ヲ説明シ日本人乗組「S」日本艦從
關係ノ長江(長沙迄)來合關ニ格別配慮相煩ハシ度
細部關シハ總參電第一〇三號一三號參照セシ度
通電先 次官

參 考 鏡、昌、櫻 復員本部

(終)

1472

長江内ニ歸還輸送船舶ヲ進行サレ度件申入(案)

目下安慶附近ヨリ上流ノ揚子江流域ニ在ル未歸還邦人ハ別表ノ如ク
中國側ニ於テハ船舶不足ノ理由ノヤトニ之等ヲ上海迄徒步行軍セシ
ムル即チ計畫セラレアルモノノ如クヤモ左記ノ如ク此ノ流湍不良ナル
運ナキ地方ノ長途ノ行軍ハ難事ニシテ五、六萬ノ行路死亡
者ヲ生スヘキコトハ既往ノ經驗ヨリスルモ豫想ニ難カラス
特ニ數萬ノ婦女子及患者ニ思フ茲ス時ハ條例ニ基エス比ノ條例了解
ノ上中斷制ト協力ノ上長江内ノ船舶輸送ノ實現方在應煩シ度

左記

一、武漢―南京間ノ行車ニ就テ

二―三日ニ一日ノ休日ヲ設ケルモノトシテ武漢―南京間四十五日

長江―武漢間三十五日ヲ要ス之ヲ為シ糧食一二二八〇噸、編上電一

三〇〇〇〇、毛布二七〇〇〇〇、冬衣八三〇〇〇、冬褥八〇〇〇

〇、外蓋六五〇〇〇、靴下六五〇〇〇〇、湯帯天幕三八〇〇〇、

局地輸送力トシテ自動貨車二五〇輛ヲ要ス

ニ行軍ノ準備ニ就テ

石陵原ハ既ニ上海、南京ニ在軍ナク新調セハ少クモ三ヶ月ノ時日

東京小作館

ヲ要ス糧食亦收買ハ不可能ニアラサルヲ以テ金セムルヲ集積スル爲ニ
ハ四箇月ヲ必要トス

以上勦索スル時ハ行軍準備ノ爲故少限三箇月ヲ要シ茲令準備ヲ待
タリトスルキ從來ノ例ニ倣スルモ實施ニ際シテ疎忽シ得サル凡有
事故ノ發生特ニ患者ノ多量ニヨリ兵員ハ甚タシク損耗シテ齊整安
全ナル行軍ハ蓋ムヘクモアラス

即多大ノ日時經費ヲ費スモ外洋船組送出シニ則ニ合ハサルノミナ
ラス極メテ不経済的ニシテ又實施セハ甚難スヘキ事^難難シ得ニ多

數ノ死亡者及患者ヲ生スルハ惡ト傳サル所ナリ

東洋
南洋

東京小津納

1476

陸

軍

別 紙

陸軍軍人軍屬 約 一九萬二千 百名

内應者 一萬八千七百名

海軍軍人軍屬 約

内應者

一 般 邦 人 約

内應女子約

内應者約

1477

取
京
小
津
納

1478

21
3
7

交易船形船件

甲印船長摩口

海外電一五〇

掛川領事二傳へ了し交

船形運送五會ヨリ

帶連	長	代
	長課	
	員課	

發信者
總務局長

本文

603

昭和廿一年七月七日

批



1479

略

支

電

電

報

三

七五

一〇〇二

一九六四

一一五〇

〇〇〇〇

點受著發

6

昭和二十三年

北京三度長船(支)
中支支隊船(支)
直支支隊船(支)
支那派道軍總參謀長(南京)

海參電第百四一九號

海外電第一四六號歸聯

中國方面ノ郵船配船ニ關シ給別ノ配慮ヲ賜リ軍民共ニ洵ニ感謝ニ堪
ヘズ配船豫定ニ依レバ華北ニハL.S.P.ノミ一四隻配船ノ計畫ナルモ
該方面ノ船者等ノ滯留狀況ニ急ニ邦船又ハ「リパテイ」型ノ一部ヲ
急送ニ配船方特別ノ努力ヲ賜リ候
尙最近中國戰區内ハ各地區共一特ニ廣東方面長江上流地區ニ食糧

(以下裏面)

他般ニ逼迫シ危殆ニ虞シアル状況ナルニ付此ノ上共配船ニシテ御高
 比志フ次第ナリ又連雲港ニハ軍民総一萬九千一軍九九六三、民九〇
 八七一アリ食糧逼迫ノ爲至急配船ヲ起ヒアル状況ナルヲ以テ之方既
 航長込ニ付奉リ候

(終)

支那

北支

總參

總參電第 四二九號

宛 汝官

支那派遣軍總參謀長 (南京)

三	三
六	二
一	二
九	二
五	二
四	二
一	二

總參電第 四二九號

總參電第 四二八號 及 第 四一九號 閱 朕

現地ヨリノ報告ニ依リテ連雲ノ糧食事情ハ左ノ如ク相當深刻化シテ

リテ現地負ハ中國則ヨリノ現物(代金)ニ交付シテ平糶ヲ盡シ

テ早急ノ實現ハ困難ナルト思料セラルニ付取敢テ涉外並第一

四六號第一項ニ依リ華中向「LST」ノ内最小限一ロ隻ヲ連雲向

スル如ク折衝方配慮ヲ賜ハリ度

尙在運雲米糧機關ヨリモ東京米軍司令部ニ對シ配船方要請ニ

テ人由 此方志ニ

左 記

有テ現在糧食分割日数

一 達雲地区

約 五七〇口 名八 約 二四日間

二 海州地区

約 三三〇口 名八 約 二四日間

直寛先 役官

参 考 上達雲

(終)

支

略號
緊急電報

宛 次官 配船場長

申請

支那派遣直 總參謀長 (南京)

總參謀長 四二八號

配船二箇ニ御配慮ヲ賜リ感謝ニ堪ヘズ

新配船ノ移行ニ諸隘路アルト推察ニ難カラザルニ來船地ノ

窮迫ハ漸ク深刻ヲ加ヘアル狀況ニ秀嶺參電第5號參照運

雲然況ハ別電スルニ對シテ當方ニ於テモ極力之ガ打開ニ關シ極

衝スル共ニ塘沽青島配船増加ニ就テハ臺灣向配船ノ「1」3ヲ

一部流用シ隨ソテ其ノ終了期ヲ遲延セシムル止ムヲ得ズトシ目下

及示セラレラル米案ハ實情ヲ調査シ反記ノ通修正スル如ク仕圖

例ヨリ歸旋方由請シテリ

以上參酌ノ上輸送ノ促進ニ關シ此ノ上共配慮相續シ度

三	昭
六	二
八	一
九	二
三	二
四	三
五	三
六	三
七	三
八	三
九	三
一〇	三
一一	三
一二	三
一三	三
一四	三
一五	三
一六	三
一七	三
一八	三
一九	三
二〇	三

一 塘沽「L」S「T」八月ヨリ逐次増加シ五月末迄三六隻「L」B
 八四月末ヨリ五月末迄三一ニ隻就航ノ原案ナルモ三トシテ思
 者輸送ノ為更ニ病院船「L」B各一隻(受入「L」B二隻)
 三月初メヨリ増加シ四月後ハ一口隻トスル如クセラレ度
 ハ病院船及「L」B從進由ノ経緯ハ一復交船変更トシテ
 在リ諒承ス

註、増加「L」B二隻ノ代船ニ「L」S「T」六隻ヲ差當ルニ可ナル程

二 兼ナリ

三 青島「L」S「T」二月ヨリ逐次増加シ五月末迄二八隻就航ノ原
 案ナルモ四月末ニ終了セラルベカラザル状況ナルニ依リ更ニ「L」
 B「T」ヲ三月初メヨリ四月上旬迄八四隻(四月中旬ヨリ末迄三一隻
 ヲ増加スル如クセラレ度

通電先 次官
 参 考 甲 第四十三号

(終)

北支

略
荒

青島患者集結完了、病院船配当

至急電報

完 次官

秀嶺青醫電第三號

秀嶺部隊參謀長(青島)

第四十三軍管内患者一四〇〇

内譯

擔送

二五五

護送

四三〇

獨歩

七一五

青島集結完了

病院船配船方特御配慮相煩度

佐世保=病院船橋丸滞船中ト反聞ス

一回廻船セラルレバ爾餘ハLSTヲ輸送可能ナリ

昭
三二
三六
一八
一九
二〇
二一
二二
二三
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

支

略號

備前軍現定、一却改

至急電報

宛 次官

支那派遣軍總參謀長

總參電第四七二號

第

三三、一七三、
三九、一七三、
一〇、一一三、
一一、一三〇、
一〇、一三〇、

一〇、一三〇、
一一、一三〇、
一〇、一三〇、
一一、一三〇、
一〇、一三〇、

中國陸軍總司令部誡字第二七六號發令セラル(三月四日)

中央ニ於テ今般米軍駐京連絡部ヨリ移牒アリタル東京聯

合軍總司令部發令係ル日本將兵及居留民ノ日本宛郵便

物差出現定左ノ如シ

(1)乃至(5)從來ト差異ナキニ付省略ス

(6) 郵便物ノ重量及件数出シノ葉書枚數ハ制限セズ

(7) 總テノ中國向ケ郵便物ハ日本將兵及居留民還送船目的

地到^能著後船民之ヲ港口司令ヲ經テ中國郵政當局ニ引渡スベシ

(8) 總テ日本宛郵便物ハ中國郵便局ニ於テ日本將兵及居留

民還送船舶出港ノ際港口司令ヲ經テ船長ニ交付ス

關係方面ニ支々命令スルモ遵奉方轉命スベシ

通電先 隸下名單 参考 次官

(終)

上ニ増加シ加フルニ濟南ヨリ集結中ノ居留民ハ宿舎出發前迄
暴民ノ襲撃ニ遭ヒ殆ド金品ヲ強奪セラレリ

又列車不通(二箇所不通 約五日間ノ行程)ノ爲老幼婦女子モ
行軍スルノ狀況ニ迄ナリ集結後ハ愈ニ悲惨ナルベキニ付向後
カニ毎旬約二萬ヲ輸送シ得ル如ク青島ニ増加配船万度係
方面ニ折衝相煩度見込承リ度

註 七日現在青島港乗船全人員數約五萬人

通電先 次官(外務省) 海運局(註海運局ハ支通科ヨリ傳達

アリ度)

参考 案四十三單

支那

越北ニ威ヲ連絡存用シ生ノ要トシ

宛 次官

支那派遣軍總參謀長(南京)

總參電第四五九號

威參一電第八〇四號関聯

中國陸軍總司令部ニ本件ニ関シ連絡セル所南支ニ於

テ此ノ間ノ事情全ク不明ニテ直ニ重慶對シ問合ス旨

連絡アリタルニ付判明次第連絡ス

尚第三十八軍ハ四月末ニ全員歸國スベク之ガ復員處

貼ニ一、三、
三、九、二、三、
一、七、三、五、
二、八、三、五、
ワ、反、
ワ、反、

1493

理中國及米國ニ於テ實施シアルヲ以テ秋山中將ノ
連絡班ハ必要ナルベク附言ニアリテ越北ノ實情判明
セバ報告スベシトノ要求アリタルニ付承知相成度

通覽先 威、信

参考 次官

(終)

支

略號

黃埔向^{至急電報}疾^報船^報自^報信^報之^報回航申請

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九

宛 次官

支那派遣軍總參謀長

總醫官第六五號

黃埔向ケ病院船及患者輸送船最優先回航願シテハ
 曩ニ總參電第三六四號依リ依頼セシ所ナルモ最近現地ヨリ
 左ノ如キ報告アリタルヲ以テ此ノ上共便宜相煩度

一黃埔迄ノ吃水六目下調査中、干潮時ヲ除キ七〇〇噸
 級(吃水六米)迄入港ヒシトアルモ其ノ後ノ變化不明ナルニ

付成ルベク小型船ヲ同航セシメラレ度

ニ廣東地區ノ患者ハ急造施設ニ左ノ如ク比較的重症者ノ
ミヲ收容ニ極ク困難(一部勤務者ハ幕舎生活ヲ爲シ
アリ)且衛生材料逼迫ニアリ

橋送四五元護送ハ三獨歩九一計 三三三(内傳染病三
〇七) (二月末日調)

三尚中國陸軍總司令部ヨリノ連絡ニ依ルハ橋丸ヲ近ク廣東
ニ配船スル豫定ノ旨申シアルモ之ガ配船ノ時機ニ関シ承リ度

通電先 次官參考 復員本部 (終)

三、遊船件

天然痘發生セシ大安丸ヨリノ返來者ヲホ救セシメアリタルニ依リ米
國領事官等亦ニ救護シ三月十七日迄隔離セラレタリ

三、遊船件

返來者中天然痘患者一、大安丸ヨリ作来一名發生セリ

一、電報、廣見山、上野、北支局ニハ電報スミ

二、海軍省、大正十一年三月十七日迄隔離セラレタリ

三、遊船件

四、電報

五、海軍省

六、遊船件

七、電報

送(三月)貴績ニセロ(名)シツノアリ

上海滞留中ノ軍民ノ大部ハ概ネ四月末迄ニ還送
得ル見込

(四)今後還送船乗船區分

鳳翔ハ民衆用 其他全部軍専用トスルニ最終
決定ヲ見タリ

六海軍側ノ上海集結狀況

(一)泗礁山ハ二月下旬總員終了

(二)山島ノ大部ハ二月下旬終了 殘餘ハ四月二十日

頃迄ニ確實ニ集結シ得ル見込

(三)漢口ノ大部ハ二月下旬終了 殘餘ノ總員ハ三月中ニ完
了ノ見込

(四)九江先發隊ハ集結シタルモ其他ノ集結ハ三月中ニ
引揚シタル如ク交渉中

(終)

支

「リッター」機装具申

略號 至急電報

イ	ク	三	昭
百	九	六	ニ
一	一	二	ニ
四	九	五	ニ
四	五	三	四
四	五	五	五
五	五	五	五
五	五	五	五

宛 次官

總參電第 四三〇號

支那派遣軍總參謀長(南京)

上海廻航復員船「リッター」ハ機装具ヲ有セザルモ之ヲ實施スル輸送力ハ即倍加スベシト判断スルルヲ以テ極力之ヲ實施ナシテ配属アリ度

尙 兵装具ノ見送シ承リ度

ハ機装具ノ當方ヨリ中國側ニ函請シ之ヲ材料ヲ携行セシムル如ク努力

スベシト云フ之が要至承リ度

通電先 第一復員者(天津海運局)

支 支機

(終)

支

略號緊急電報

越北

支隊

統制下

昭三三二二一七三〇發

定次

信電第一八號

信部隊參謀長

總參贊第四五號關聯

當軍目下南方軍上入王添交通通信杜然狀態ニリ且復對策

務等關シテ總參贊指示ニシテハ狀況在テ此除指揮

轉移等並其施セシル時ハ歸還輸送開始迄ニ余日ナク相當

混雜ヲ豫想セラルニ付特ニ配慮煩度

通電先

榮

參考

第一復員荷

(終)

大野中佐

送
金

大 官 次
長 官 代
長 官 代
長 官 代
長 官 代
長 官 代
長 官 代
長 官 代
長 官 代
長 官 代
長 官 代

官 次
官 次
官 次
官 次
官 次
官 次
官 次
官 次
官 次
官 次

件 名
ケアニスノ神文ノ消息ニ関スル件

宛 名
支那派通事局長
（急電）

送 附
送 附
送 附
送 附
送 附
送 附
送 附
送 附
送 附
送 附

送外電第九三号内所

ケアニスノ神文ノ消息ニ関シテ、司令部ヨリ

再度宛ノ要求ニ答ヒタルニ付送

ケアニスノ神文ノ消息ニ関シテ、元ノ場

1503

所ハ中國ニ於テ、
シヤン、チン、
チン、シヤン、
トシテ

知ラレアル一島嶼ニシテ香港ノ西南九五哩

澳門ノ西南五六哩 大凡東經一一二度四七

分北緯三一度三九分ノ地矣ナリト信スル

二本件ニ関シ更ニ調査ヲ實施シ新事矣アラ

ハ報告アリ度シ

終

25
1875年11月

大野中佐
現地電報ノ下

終連報甲第一四三號

受發
時間 天野中佐
昭二一

涉 八 謀

終連報(三月七日附)

「ケアンズ」神父ニ歸スル件

一九四六年二月四日附のL.O.五二六(一、二)参照。「ケアンズ」神父
父カ移動セシメラレタル「元ノ場所」ハ支那ニ於テ「シヤン」チユ
アン、シヤン「トシテ知ラレアル」島嶼ニシテ香港ノ西南九五哩、
澳門ノ西南五六哩、大凡東經一一二度四七分北緯二二度三九分ノ地
點ナリト信セラル
二、本件ニ關シ與ニ調査ヲ實施シ新事實アラハ總テ官司令部ニ報告セラ
レ處

參謀部第二部長ニ代リ
「マムズン」入 佐

昭和 年 月 日	大	—	
	次	—	
	局長	代	
	課長	代	
課員	員		
件名	南方軍へ転電ノ件		
宛名	支那派遣軍總參謀長		
發信者	總務局長		
涉外電第五六號 (至急)			
總務電第一五三號返			
外地軍ノ寄者トノ無線通信ハ貴軍ヲ除キ社總ニル			

1506

為南方軍へ傳達不能ニ付記録了リ度

224

1507

三 電 報 秘 電 次 宛	電 第 一 五 三 號	發 信 者 三 那 派 達 平 四 德 學 博 士	三 月 月 月	三 月 月 月	三 月 月 月	三 月 月 月	三 月 月 月	三 月 月 月	三 月 月 月
			日 日 日	日 日 日	日 日 日	日 日 日	日 日 日	日 日 日	日 日 日
提 出	受 付	著 者	著 者	著 者	著 者	著 者	著 者	著 者	著 者

三
電
報
秘
電
次
宛
 電
第
一
五
三
號
 發
信
者
三
那
派
達
平
四
德
學
博
士
 三
月
月
月
 三
月
月
月
 三
月
月
月
 三
月
月
月
 三
月
月
月
 三
月
月
月
 三
月
月
月
 三
月
月
月
 提
出
 受
付
 著
者
 著
者
 著
者
 著
者
 著
者
 著
者
 著
者
 著
者
 著
者
 著
者

番 號	總 務 課	主 任 課	電 報 班
點 歸 主 任 者	課 點 歸 主 任 者	點 檢 配 布	

班 長	點 檢 者	譯 者	受 付

1508 22

北支

略號

青島

至急電報
完病危船取書件申請

支那派遣軍總參謀長(南京)

總醫官第六三號

米軍計畫ニ依ル青島配船ハLSTノミナルモ同港ニ於
 ケル患者收療状況左ノ如ク窮境ニアルニ就テハ病院船及
 患者輸送船止テ得カレバL-Bヲ總參覺第六三四
 號ノ如ク速急廻航方相煩度
 進テ當方ハ中國側ニ現地ハ米軍ニ夫々極力折衝中
 一濟南地區軍内入院患者ハ三月四日ヲ以テ一應青島引
 揚ヲ完了ス青島ニ於ケル現在患者ハ擔送ニ及ス
 護送四三〇獨歩七一五計一四〇トナレリ

昭
 三三、一、三三、一
 一、二、三、三、一
 一、三、七、三、三、一
 一、二、三、三、一
 一、二、三、三、一

二、右ノ外青島ニ支那方面患者妊婦（分娩前後ノ通算シテ）月ヲ患者扱トス）ヲ令ミ擔送ハ一護送ニシテ
獨歩ニ一ス 計四三〇アリ

三、又濟南ヨリ揚中ノ部隊及居留民間ノ發生患者ハ一
々一〇〇及ハエロト推定セラル

四、L S Tニ於ケル健康兵員及居留民ノ歸還輸送ハ順
調ニ進捗シ四月末ニ完了ノ豫定ナルモ患者特ニ重
症患者ノミ滯留シアリ

病院船廻航見込ナクバL S Tニ依ル總行輸送ヲ考
慮中ナリ

通電先 次官 参考 支復 四十三單

(終)

記録

支那軍事情報

支那軍事情報

南支

雷州府民 16名 志願者

瓊州府民 24名

波集參謀長

波集團參謀長

波集參謀長

一、雷州府民陸軍部隊及居民ハ三月十六日頃海口を

港水「リバテ」ニ海軍部隊ト混乗帰還、豫定ニシテ到

州軍項、取敢ク

獨立歩兵第七〇大隊 九九九名

獨立歩兵第二四八大隊 三三一名

志願者 一一一名

裁判者 五名

合計 二四四六名

(未完)

高留民以地人男? 二九名 女 一三名

老幼 五名 五名

計 四七名

池端人 女 二名 朝鮮人? 男 四名

計

合計 七三名

通電先 岡係各所

(終)

北支

山西有殘留者甚多
南、好策、
方參、
我留者、
策、
甲、
乙、
丙、
丁、
戊、
己、
庚、
辛、
壬、
癸、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

宮崎參謀ヨリ
山西省ノ概況

一、習長官ハ自己ノ生命維持ノ爲メ日本人(武カヲ第一トシ)ノ利用
ヲ最モ得策ナリトシ日本人ノ意思ヲ無視スルハ勿論中國(總司
令部)ノ命令訓令ヲ無視スルノミナシズ有元好策ヲ弄シ第一軍及
ビ居留民ヲ大量殘留セシメツツアリ其ノ經濟ニ要反ノ如シ
二、然或直後日本軍ノ武カヲ積極的ニ利用セシメシ氣嫌ナリ政策ヲ操ルツ
ニ急ク自己ノ勢力ヲ固シテ張ニ使用セントセシカ軍ノ德ズル所トナラス
三、次テ日本入部隊ヲ締束スベク企圖シ先ツ居留民ノ省所軍採用ヲ開
始セテ中國總司令部ノ策止命令ヲ受クルマデ一月中分以降ニ於テハ

牙二二二二二經由之テ各福山而後因三日本人ヲ採用スルヲ考存セシメ
應是六八二新居野民ノミ

又此ノ間教育ヲ名義トシテ日本志ヲ相慮致徴用セリ十月不以降
ニ於テハ好會ヲ以テ區長一連接ヲ夜政策ヲ開始シ

編部隊ノヲ統戦ニテ現地之集解除セシ日本軍人ハ居留三ヲ
知清敬吸吹セリ

次月十月六ニ云ルヤ日本軍人ヲ強留セシル為ニ居留民一特ニ女ヲ
ヲ引留ムルノ在アリトシ各道村等ヲ弄スニ至レリ

更ニ三月四旬ニ至ルヤ中央ノ許可ヲ得ルニアリト稱シ彼ノ親衛向
部隊トシテ特務隊(一箇管及數騎ニ於ケル)通信ハ日本人トシ

二箇管ハ華人ヲ基幹トス)一箇ヲ編成スニ決シ某一年ニ指令
ヲ發セリ

次テ 鐵道修理ヲ名義トシ一ロロ名ノ徴用令ヲ發シ更ニ
最近ニ於テハ山西軍勢カ圍内ノ鐵道修理ヲ命ズルト共ニ之ヲ

新聞ニ公表シ上司ニ對シハ將兵ノ口ヲ偽ルベク指導シ且將兵
 四ニラロロ以外ハ歸國セシメズト公言スルニ至レリ
 一 第一軍ハ當初ニ於テハ最悪ノ條件下ニ殘留ヲ希望スル者以外ハ全
 部歸國セシムベク指導シヤリシガ日本軍コソ扱ク爲相當ニ中央軍
 ノ増派ヲ必要トシヤルニ拘ラズ僅短方面ノ中央軍ハ却テ減少シヤル
 狀況ヲ見ルハ且總軍ヨリ電文ニ注意スベシト指示セラルルニ及ビ今々
 方面軍及總軍モ其ノ信ヲ發信電報ハ一々閻錫山長官自
 檢ヲ受テ甚實ヲ不正曲ニテ報告スルト共ニ第一軍主力ヲ歸還セシ
 誘導ニハ一部ノ後衛ヲ殘留スルノ要アリト信ズ
 前述特務團ニ積極的ニ協力スルニ至リ遂ニ三河師團長及金谷
 長自ラ殘留セザルベカニザル狀況ヲ作爲スルニ至レリ
 三 兩軍内ニテ今後ノ情勢ニ對シ極メテ淺薄ニシテ甘キ見

下不純ナル動機ヨリ殘留ノ希望者ハ流言ヲ放チテ殘留ヲ勸誘
脅迫セシメ以テ各兵團端末ニ六重司令官ノ真意徹底ヒズシテ特務
團歸入希望者五五〇名ヲ算サスルニ至レリ

但シ流言ニ迷サズ部下ヲ指導セシメ兵團ヲリテハ殘留希望者ニ口數名
ニ過ギズ而シテ今ヤ山西省軍中殘留希望者ト然ラザル者トノ間ニ物
凄キ相剋ガ展開セシ軍ノ風紀全ク紊乱シ收捨スバカラザル様相ヲ
呈セントシツツアリ

今日小官等現地ニ臨ムヤ軍民初メテ真相ヲ承知シ血涙ヲ示リテ出
ヲ歎願スル状況ナリ

五 小官間錫山長官ニ面接シ誠意ヲ示シ、二九號 政字第五三號ヲ
示シ是非大殘留ヲ希望シ派ナル技術者以外ハ全部 五月中旬迄ニ山
西ヨリ送り出スルヲ強要ニ要求セシ處 彼ハ且初左ノ如キ訓令ヲ命

八 受領シマスト言へ張りシガ原本ヲ楯トシテ懸詰スルヤ動搖ヲ覆
難キモアルヲ着取セリ

六 然リト雖モ今後軍民ヲ放出ノ爲ニハ第一軍ノ實情ニモ鑑ミ中國總
司令部等ニモ嘆願シ根本的ノ施策(中央軍ノ増産軍民ヲ揚
監察團ノ派遣聯合軍ノ奨諭喚起等)ヲ講セラルベカラザルモノト
確信ス

七 細部ニ関シテハ歸任後報告スベシモ取敢ズ右概要報告

通電先、支總

参 寿 次 官、支 總

(終)

支

長江輸送ニ関スル電報
略號 緊急電報

宛 次官

統帥部參謀長

統參電第ニ三六號 (電註 三月十三日配布次分)

集團歸還輸送ニ對シテ大御盡力ヲ感謝ス

行軍ヲ不可トシ總軍意見ニ全然同感ニテ現況ヲ以テ極

テ大犠牲ヲ拂フニアラザラス如キ長途行軍ハ不可能ナリ

詳細ノ檢討ハ別ニ提出ス

電 三月十三日配布ニ續ク

且企圖ガ悉ク大行軍ニ到着適合セシメ得ズ之ヲ一式中國軍ニ

存スルコトモ亦不可能ナラン

昭 三 一 二 三 四 五 六 七 八 九
一 二 三 四 五 六 七 八 九
一 二 三 四 五 六 七 八 九
一 二 三 四 五 六 七 八 九

二行軍ニ依ル犧牲ノ甚大性昨夏(湘桂作戰)時ノ長途追及部隊
行軍ノ実績ニ見ルニ〇()ニ〇%ノ損耗ヲ來セリ

況ヤ今日之氣体力共ニ既ニ昔日ノ如クナラズル軍隊ヲ以テ施設不
完全ナル地域ニ於テ此ノ長途行軍ヲ強行(一)
電註「モカ行軍時機不良」ニ續クハ此也

判断言レ從テ増永期一學長江輸送ノ場合ニ比スルハ中國側ノ負擔ヨリ見
レ之邊ヲニヨリ大ナルベシ

四 長江内ニ外國船ノ出ハレニ就テ中國側ノ長江内ニ外國船ヲ入ルコト不可トスル
點ハ諒承セラルルモ日本船ニ航行上制限中國ノ監督又必要スルハ編成ヲ
改正中國側ノ指揮下ニ入ルル等各種ノ方法ニ依リ非常ノ際大局的
ニ解決手段モアルハク此ノ點ニ關シ日本側ヨリ讓歩米軍ノ配慮ヲ

特ニ期待スル所ナリ

五 内地食糧事情

武漢地区² 的ニ平均六ト瓦³穀地区⁴ 五五⁵瓦、岳地区⁶ 不詳⁷ト
武漢ト同様直接⁸仕向⁹側ノ好意¹⁰ニ依リ各地区トモ困難¹¹模倣¹²ト
特別ノ支障¹³ナク¹⁴給養¹⁵セラレアリ

但今後¹⁶端境¹⁷期¹⁸ニ更ニ相當¹⁹速度²⁰ノ増加²¹ヲ豫想²²セラルル²³ト
原因²⁴ハ現物²⁵ノ不足²⁶ニアラス²⁷ニ²⁸産物²⁹價上³⁰昇³¹ニ伴³²フ³³購買³⁴價格³⁵ノ問題³⁶
ニ屬³⁷ス³⁸コトト判断³⁹ニアリ 又配船⁴⁰ノ待機⁴¹ニ場合⁴²ハ前給與⁴³ヲ⁴⁴
スル⁴⁵又支障⁴⁶ナシ

詳細別報ス

六 在外行軍ニ伴⁴⁷フ地方治安⁴⁸問題⁴⁹、地方住民⁵⁰ニ及⁵¹ズ⁵²迷憾⁵³之⁵⁴ノ
間⁵⁵發生⁵⁶ス⁵⁷不測⁵⁸事件⁵⁹中國側⁶⁰ハ⁶¹端末⁶²ニ⁶³於⁶⁴テ⁶⁵實行⁶⁶ニ⁶⁷関⁶⁸ス

從來ノ実情等ヨリ右行軍ノ方針ハ極クテ至難ニシテ統ニモ實
徳下ヲ責任アル実行ニ関シ自信ナキニ付今後長江内船舶輸送
ニ極大ノ料ニ配薦アリ度

通電先 總

参 考 次官 呂 櫻

電註 本電第ニ項中 判断セラレ期俾セラレダルトトアルヲ ヲ從

ソテ増水期ニ 訂正相成度